

H27年度 第2回高知市地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：2月10日（水）13:30～16:00

場所：高知県教育センター分館

1 議事等

（1）産業振興計画の戦略等（案）について

- ・第3期産業振興計画の戦略等（案）について説明

（2）第3期産業振興計画における高知市地域アクションプラン（案）について

- 1) H28年度高知市地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）について
 - ・追加3件、削除2件、統合1件について説明
 - ・案について了承された
- 2) H28年度高知市地域アクションプラン（案）について
 - ・全30項目について説明
 - ・案について了承された

（3）産業成長戦略について

- 1) 移住促進分野のバージョンアップの方向性について
- 2) 歴史を中心とした博覧会の開催について

2 意見交換

<産業振興計画の戦略等（案）について>

- ・特になし

<第3期産業振興計画における高知市地域アクションプラン（案）について>

○竹資源を活用した地域産業クラスター事業について

- ・土佐山における竹の集材センターの事業を地域アクションプランにどのように位置づけていくのか。

→竹の集材機能の部分については、新たなクラスター案件とするのか、竹ハンドルやブラシの柄を作る既存のアクションプランと一体として考えるのかを検討している。

- ・春野においても過去にバイオマス、県外企業の誘致といった方向での話があり、竹の商業化に関しては興味を持っている県外企業がある。

→竹の集材機能が安定化すれば、竹産業の誘致も視野に入れている。ブラシの柄などの事業が加われば、春野の竹も使って行ける。また、竹粉の農業分野等での活用も考えている。

- ・竹資源の有効活用は高知県内全域の課題のため、可能な限り様々な方向性で可能性を探っていくべきである。

・集材センターが土佐山で操業するのであれば、災害の多い県道の整備や工場用地の確保に問題はないのか。また、堆肥化については、以前から高松市で取り組んでいる企業があるので参考にしようか。

→土佐山に通じる県道は現在拡幅工事を行っている。工場用地については、野菜工場跡でコスモ工場の第2工場が操業しており、その隣に集材センターを建てる予定であり、また、堆肥化も含め売り先を多く持つことで単価を上げていくことを考えている。

OH28 年度高知市地域アクションプラン（案）について

- ・農業分野における農産物の輸出について、高知ファズなどの組織はどのような活動をしているのか。

→今後は TPP のこともあり、外国への輸出は産業振興計画の成長戦略の方に大きな柱の一つとして位置付けている。現在、県庁内部で貿易に関する窓口をはっきりさせるなど体制を整えているところである。

- ・春野のキュウリ、ショウガなどについて、生産性向上が課題となっている。そういったなかで、ファインバブル発生装置により水に酸素を溶かし作物に散水することで効果が期待できるのではないかと、県内の企業と共に試験を行っている。いよいよ商品化して販売に取り組んでいこうとするところである。

- ・高知県では人口減少が問題となっているが、全産業において後継者不足が大きな課題である。林業においては伐採事業者の減少によりバイオマス発電所やパルプ工場材木の取り合いになっている。県が取り組んでいる林業学校もあと10年早くする必要があった。

→首都圏でも人手不足が起こっている。高知県では移住者へ対して、この仕事をやってくださいというような具体的な募集をしている。農作業ヘルパーなどの仕組みも不可欠であり、今後も担い手や後継者対策に取り組んでいく。

- ・食品工業団地では新商品開発の際、賞味期限などの検査を高知県工業技術センターの機械を使って行っているが、機械の順番がなかなかとれない状況である。

→工業技術センターの各課にある機械をやりくりするなど対応策を検討する。

- ・(No.23 日曜市をはじめとする土佐の街路市の活性化)日曜市や商店街振興に関連し、はりまや橋下の駐車場等と連携した取り組みは出来ないか。また、大型直販店を高知市内に造るとすれば、街路市の出店者に影響はないか。

→日曜市は生活市という軸を守りながらやってきた。直販所とは違う魅力をもっている。大型直販店がどう影響するかは分からない。行政サイドで誘導することは難しい。

<産業成長戦略について>

○移住促進分野のバージョンアップの方向性について

- ・移住に際しては住居の問題が重要であり、地方公共団体が市営住宅などを立てることによって社会増につながっているケースがある。

→県内には社宅として使っていた住宅を移住者用として準備するなどの事例があるように、少しずつ取り組みが進んでいる。

- ・高知市内でいうと土佐山地域への移住が人気が高く、住宅整備に取り組んだ経緯があるが、住宅を建てる土地がないということが分かった。集合住宅のようなものでないと無理だと感じた。

○歴史を中心とした博覧会の開催について

- ・高知は歴史と食をセットで売り込んでいくことが大切である。行政から補助金を受けているため、飲食店を紹介する際、公平性の確保が難しい。

- ・高知市観光協会は、来年度、観光ガイドボランティア養成講座で歴史について研修を行う。その際に歴史を中心とした博覧会の紹介をし、博覧会開催に向けた準備

や取り組みを行っていく。

・博覧会について第1幕と第2幕でそれぞれどれくらいの受け入れを考えているのか。また、その際の観光消費額はどれくらいを想定しているか。

→4年後の目標を435万人としている。また、観光消費額は4年後で1,230億円を目標にしている。また、外国人を乗せた豪華客船も来年度は多数高知に来る予定。外国人は全国的に見て消費額が15,000円ほどで、特に中国系が高く欧米系は低い傾向にある。

・大型客船が来高するとき、漁船で大漁旗を掲げ迎え入れることはできるか。

→岸壁にて着物を着て記念撮影を行うなど受入対応が行われている。そういった取り組みは満足度の向上につながるため、可能であれば協力いただきたい。

・大型客船が入った時に大切なのは、高知市内までの足、Wi-Fi、メニューの多言語化、道路標識であり、それらの充実を行政が担ってほしい。

→高知はクルーズ業界の中では位置的によい場所だといわれている。クルーズ客船の外国人観光客が高知に着いてまず目指すところは高知城。当面は行政も高知新港から高知市市街地へのシャトルバス運行を行っていく形で交通に関する支援を行っていく。また、外国人受け入れに関して、地域アクションプランにも位置付けられている「おせっかい協会」がメニュー等の多言語化支援や相談会など様々な取り組みをしている。今後とも官民一体となり取り組みを続けていく。

■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域産業担当）

電話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp